

第十三期（2024年度）事業報告書

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンドコミュニティネットワーク

はじめに ～私たちの想い～

私たちの周りには、いろいろな考え方や文化、価値観、国籍、そしてさまざまな状況を生きている人たちが暮らし、私たち自身もそのような一人です。そんな多様な人々が一緒に生きる中で、ふとした行き違いや無理解から、大人も子どもも、人と人とのあいだに「見えない垣根」ができてしまうことがあります。

アーモンドコミュニティネットワークでは、その垣根を少しずつ越えていくために、「まず、相手の話にじっくり耳を傾けること」「傾聴」を大切にしてきました。お互いの話にしっかり耳を傾け、相手と出逢い、理解しようとするところから、あたたかい関係や安心できる場が生まれる。そんなふうには、誰もがひとりぼっちにならず、こころが支え合える社会を目指して活動を続けています。

この報告書では、令和6年度に取り組んできた「傾聴と対話の実践」を軸としたさまざまな活動の成果をご紹介します。特に、子ども・若者への支援、高齢者への支援、地域とのつながり、そしてフィンランドの専門家とともに進めた国際的な学びなど、たくさんの出会いと協働を通じて育まれてきた実践を振り返ります。

法人ホームページ <https://npoacn.or.jp/>



私たちの活動の背景にあるミッション（理念）は、次のようなものです。

法人のミッション（定款より）

多様な個性・文化・価値観を持つ人々が生きるコミュニティの中には、人と人を隔てるさまざまな問題があります。

隔ての中垣を越えてこころを支え合い、健やかに共に生きるために、「相手の話しをより良く聴くこと」「傾聴」を土台とする人間関係をつくり、市民が孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現に寄与することを目的に活動しています。

このような想いを胸に、今年度もひとつひとつの出会いを大切にしながら活動を行ってきました。それでは、令和6年度の主な取り組みと成果をご覧ください。

■ 傾聴を土台とする対話の実践の推進

当法人は、北欧発の「ダイアログ（対話）」実践を取り入れながら、「傾聴」を土台とした支援のあり方を深化させてきました。令和5年度から継続しているヤングケアラー支援では、子どもたちが安心して語れる「対話の場」を提供し、自分の気持ちや考えを言葉にする力を育んでいます。

■ 子どもたちとの対話実践と新たな取り組み

毎月1回開催している「こども哲学対話」は、アーモンドこども食堂終了後に実施し、毎回異なるテーマでの語り合いを通して、自分の思いや感情を言葉にする力を育みました。他者の話に耳を傾けることで、思いやりや自己表現の力を自然に育む場となっています。「こどもの声を聴く」ヤングケアラー支援の目的で実施しています。

学校が遠方になり法人拠点の居場所への通所が難しくなる高校生世代への支援方法として、相談や交流ができる「オンラインサロン」を独自のメタバース空間で構築しました。子どもの意見を取り入れながら共に作り上げたこの空間は、アバターで自由に行動できる点が、ネットゲームに慣れた世代には親しみやすく、必要なときに気軽にアクセスできる“もうひとつの居場所”として子どもたちとつながる手段として活用をしていきます。

■ 受益者の広がり和社会的課題への対応

法人活動の受益者数は、年間で 延べ 8,845 名 となり、特に以下の社会的課題への支援が強化されました。

- * 不登校児童・生徒の増加
- * 子どもの貧困と経済格差からの教育課題
- * 子どもの権利擁護
- * ひとり親家庭支援
- * 独居高齢者への介護予防支援

■ 孤立と孤独の問題

文部科学省が公表した「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によれば、全国の不登校児童生徒数は前年度比 15.9%増の 34万6,482人となり、過去最多を更新しました。

横浜市教育委員会が発表したデータによると、横浜市の令和5年度の不登校児童生徒数は 9,775人と前年度から 19.6%増加し、小学校では 4,260人（22.8%増）、中学校では 5,515人（17.3%増）となっています。

コロナ禍以降は特に小学校での増加率が顕著です。この背景には、個別対応が必要な時期の子どもへのサポートが家庭や学校で難しいことと、家庭の生活環境の変化や学校での人間関係、精神的な健康問題、保護者の意識の変化など、長期化する不登校の問題には複合的な要因が考えられます。

不登校児童生徒には家庭や学校以外で安心できる居場所と保護者には気軽に相談できる場が必要とされています。

こうしたニーズに応えるため、地域や関係機関と協働しながら多様な支援の場づくりを進めています。

孤立と孤独の問題で対策が急がれることは、深刻な状況が続く、こどもの自殺の問題です。2024年小中高生の自殺者数は過去最多となり、日本のこどもは1週間あたり約10人が自殺しています。

子どもたちの心を支えるためには、小さな不安や懸念の段階から一人で抱えこまないで、自分の言葉にして伝えられる、信頼できる大人との関係と安全な居場所が必要です。

こどもは言葉だけでなく非言語でもSOSを出しています。それを、まわりの大人がよく見ていて感じることから「子どもの声」が聴こえてきます。また、早い時期に心配事が小さい時から伝え合う「早期対話 Early Dialogue」の実践を、こども若者支援の中で進めています。

■ 対話ミーティングによる地域ネットワークの強化

地域連携を深める取り組みとして、「Dialogical Meetings in Social Networks (連携する人々や組織との対話ミーティング)」を定期的に開催し、そこは支援者同士が心配事や知見を共有し、効果的な支援の連携を強化する場となりました。

都筑区役所こども家庭支援課、横浜市北部児童相談所、北部地域学校教育事務所、スクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター、北部地域療育センター、小中学校の専任教諭、民生委員主任児童委員などとの「Dialogical Meetings 対話の会」を持ちました。

区内中学校の養護教諭部会とのミーティングでは、当法人の対話実践についての紹介と対話ワークショップも実施。参加教員から高い関心が寄せられ、さらに連携が深まりました。

■ ICT 学習支援と職員研修の成果と課題

ICT教材「eboard」による学習支援では不登校で授業を受けてこなかった中学生が意欲的に小中学校教材からの学び直しに取り組み、希望する高校への進学という大きな成果を上げました。

職員とボランティアは、eboardが開発した「eDojo (イー道場)」にて、不登校支援のための研修に取り組みました。

■ 神奈川県教育委員会との協働事業：メタバース活用支援

神奈川県教育委員会の「メタバースを活用した不登校支援事業」に、当法人を含む県下9団体からなる共同事業体への委託事業として参画しました。

- ・平日午後にメタバース空間を開設し、不登校の児童・生徒がオンラインで交流や学習、外部講師の特別プログラムに参加できる環境を整備。
- ・当法人は週1回、テキストチャットや音声通話による傾聴と対話の支援を実施。
- ・当法人の担当日に参加していたある中学生が実際に「不登校相談会」へ足を運び、メタバース上で出会った支援者とリアルに会って話をするまでに成長した事例は、大きな成果のひとつです。

この取り組みは、リアルな場への参加が難しい子どもたちにとって、メタバースという新たな支援の可能性を示しました。今後もメタバースの活用に積極的に取り組む方針です。

■ 拠点を活かした包摂的な居場所づくり

29名のスタッフ（職員・ボランティア）が、北山田の拠点を基盤に、学習支援、生活支援、子ども食堂、フードパントリー活動、高齢者支援、アート活動などを実施しました。

また、東山田「シェアごはん」へのつなぎ支援として、地域カフェ「DEN」による低価格のお弁当の利用支援を通じて、家庭の孤立を防ぎながら、食を軸とした新しいつながりが生まれました。

【 令和6年度 傾聴と対話の実践研修事業 】

1. 事業の概要と発展

法人が主催し、法人メンバーおよびフィンランド人講師が担当する「傾聴と対話の実践研修事業」は、本年度さらに発展を遂げました。

法人主催の拠点での事業は既存の「対話のことは実践ワークショップ」および「傾聴と対話の広場研修」に加え、新たに「Early Dialogues 早期の対話実践と支援を学ぶ勉強会」を開始。

通年で計34回のワークショップを開催し、のべ355名が北山田の法人拠点にて対話実践研修に参加しました。

また外部組織から依頼を受けて代表が担当した講演会・セミナー・研修会は、9日間で285名の参加者が受講しました。

2. 北山田拠点での研修と外部組織主催の研修

【拠点でのプログラムと講師】

「対話のことは実践ワークショップ」 講師：千葉理事

「傾聴と対話の広場研修」 講師：水谷代表

「Early Dialogues 早期の対話実践と支援を学ぶ勉強会」講師：本田会員

「早期ダイアログを学ぶ」 講師：オッリ・ライホ（Olli Laiho／フィンランド）氏

【代表が登壇した講演会・セミナー・研修会】

- 横浜都筑ロータリークラブ主催：
「こどもの声を聴く-傾聴と対話を土台とする支援-」
- にしく市民活動支援センター にしとも広場主催：
「傾聴と対話のワークショップ-対話が育む心地よい地域-」
- 横浜市金沢区六浦西第一地区 民生委員会主催：公益財団法人よこはまユース企画
「傾聴と対話のワークショップ-地域社会での関係性-」
- 東京国立近代美術館主催：午前・午後
令和6年度第3回 MOMAT ガイドスタッフフォローアップ研修「傾聴研修」
「来館者との関係づくりの基本「傾聴」と深い関わりづくりの「ダイアログ実践」」
- 横浜市奈良小学校放課後キッズクラブ主催：公益財団法人よこはまユース企画
「こどもとの関係づくり「傾聴」と支援に活かす「ダイアログ実践」」
- 北山田小学校 PTA ふれあいの会主催：
「対話のことは～よりよいコミュニケーションのために～」
家庭・学校・職場での語らいに役立つ「聴くこと」と「対話」
- 都筑区 PTA 連絡協議会主催：
都筑区内公立小中学校 校長・PTA 会長懇談会 研修会講師
「傾聴と対話の活動を軸に、生きづらさを抱える子どもと親のための安心できる居場所を地域につくり、支援の協働ネットワークで支える」
- 横浜市青少年育成センター主催：支援者向け研修
青少年活動を支援するためのスキルアップ講座
「支援での関係づくりの基本「傾聴」と深い関わりづくりの「ダイアログ実践」」
- 横浜市緑区社会福祉協議会主催：NPO 法人向け研修
「利用者との関係づくりの基本「傾聴」と「ダイアログ」」

3. 国際セミナーの開催

2024年11月30日および12月1日の二日間にわたり、第一回『Dialogical Meetings in Social Networks in Kanagawa』セミナーを開催し、のべ124名が参加しました。

主催：NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク、Dialogue for You (d4U)

開催目的：対話的支援の国際的知見を共有し、日本における実践を深めること

本セミナーは、法人職員および連携する小中学校教職員、青少年支援団体、行政・医療・福祉分野の専門職、大学教員、対話実践支援者等を対象に開催され、共催事業の関係者からの広がり、関東、関西、沖縄の遠方からも参加者が集まりました。

法人代表が共同運営代表を務める新設の任意団体「Dialogue for You (d4U)」との初の共催事業となりました。

4. セミナー・ワークショップのプログラム

講演①（11月30日）

講師：トム・エリク・アーンキル（Tom Erik Arnkil）氏
フィンランド国立保健福祉研究所 名誉教授

「早期対話への招待 —ソーシャルネットワークでの対話的な空間の共創」
‘Invitation to Early Dialogues-Co-generating Dialogical Spaces in Social Networks’

講演②（12月1日）

講師：タルヤ・ヘイノ（Tarja Heino）氏
フィンランド国立保健福祉研究所 名誉教授

「フィンランドの社会および教育システムにおける子どものための対話的支援」
‘Dialogical Support for Children in Finnish Social and Educational System’

通訳：森下圭子氏（ムーミン研究家・翻訳家）

参考：フィンランド国立保健福祉研究所（THL）公式ウェブサイト
[<https://thl.fi/en/main-page>]

5. 傾聴と対話実践事業の今後の展望

本セミナーを通じて、困難な状況にある日本の子どもや若者、障がい者、社会的に弱い立場に置かれている人々への支援で孤立や孤独を防いでいくために、「聴くこと」と「対話」がいかに重要であるかを広く伝えることができました。

今後も対話の力を活かした支援のあり方を、連携する人々とともに探求・発信してまいります。本法人は、任意団体「Dialogue for You (d4U)」と連携し、全国各地における傾聴と対話の実践支援の普及およびネットワークづくりを推進してまいります。

【 令和6年度 こども若者支援事業 】

■ 子育て支援の推進等に関する事業

こども家庭庁の発足（令和5年4月）と「こども基本法」の施行を受け、当法人では令和6年度も「こどもまんなか社会」の実現に向け、食の支援・対話支援・多世代交流などの取り組みを地域に根ざして進めてまいりました。

■ 食の支援活動のさらなる広がり

こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」を受け、年間を通して643世帯・1,337人に対し、合計5,855食の食品配布を行いました。横浜市全域の区役所生活支援課やこども家庭支援課、民生委員・主任児童委員などと連携し、支援が必要な家庭への情報提供と橋渡しを強化しました。

また、都筑区内で実施された都筑区社会福祉協議会主催「食のお渡し会」にも参加し、不登校の子どもをもつ保護者の個別相談に対応するなど、複合的な支援を展開しました。地域農家や企業（株式会社タカヨシ、わくわく広場等）からの寄贈品提供も増加し、「地域ぐるみの支援ネットワーク」が着実に形になってきています。

本法人は都筑区社会福祉協議会の正会員としての活動を任意団体の時代から20年以上に渡り担ってきました。

■ 「アーモンドこども食堂」における多世代・多層的な学び

毎月第1土曜日に開催された「アーモンドこども食堂」には、延べ269人の親子が参加。小中学生がボランティアとして、メニューの企画や買い物などの準備段階から参加し、当日のデザート作りや配膳を担いました。また自身の研究課題と結びつける形で「こども食堂学生ボランティア」として参加する高校生・大学生たちと関わることも、こどもたちの社会的な学びと自己肯定感の育成に寄与しました。

地域の中で人と人とが実際に関わる体験を通して、それぞれが学び合い、そしてつながることの大切さをあらためて実感する機会となりました

食後の時間を活用して「こどもの哲学対話」を2023年11月より実施。継続参加する中高生の姿から、「対話」を通じた自己形成や他者理解の深化が確認できました。

■ 対話による「ヤングケアラー支援」の実践

横浜市こども青少年局「ヤングケアラー支援団体補助金事業」において、当法人ではオープンダイアログやリフレクティングなど、対話を軸としたアプローチを導入。複数スタッフによる省察的な対話の場を設けることで、当事者の自己理解を促し、孤立感の軽減や希望の再構築につなげる支援を行いました。

ひとりの子どもが、抱えている不安や悩み事について話してくれた際に、リフレクティングの手法を取り入れた対応を行いました。ひとりの支援スタッフが子どもの話にじっくり耳を傾け、もうひとりの支援スタッフがその様子を静かに観察。その後、子どもが一通り話し終えたタイミングで、支援者ふたりが、子どもの語った事柄について感じたことや考えたことを、子どもの前で語り合いました。子どもは、自ら語った内容を他者がどのように受け止めたかを聴きながら、自分の気持ちや出来事をあらためて見つめ直すことができました。このプロセスを通して、それまでひとりで抱えていたときには気づけなかった新たな視点を得ることができ、自信や希望、自己肯定感の高まりにもつながりました。

■ 地域とともに広がる新たな展開

NPO 法人創設から13年目となった今年度、当法人では「安心して自分のことを語れる社会」の実現を目指し、北欧にルーツをもつ対話的支援（オープンダイアログ、未来語りのダイアログ、早期対話）を地域の中で実践しました。北山田の拠点を中心に、横浜北部地域でのこども・若者・高齢者が交差する多世代型の支援が根つき始めています。

【 特定非営利活動に係るすべての事業 】

※事業開催日数と受益者数は最後の表に記載しています。

- (1) 子育て支援の推進等に関する事業
- (2) 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア フリースペース「ともに あ・る・く」

不登校のこどもたちを対象に、学習支援・キャリア支援・家庭と学校の繋がりをサポート。スクールソーシャルワーカーや学校と協力しながら、フリースペース利用日の在籍校での出席扱いの調整にも取り組んでいます。月に1回のプログラミング体験会で分かりやすいプログラミング初歩の学びも提供しています。

イ 北山田「いっしょにあ・る・く」

・「横浜市こども青少年局 都筑区こども家庭支援課」委託事業

都筑区在住の小中学生を対象に、(1)日常生活習慣等を身に付けるための支援 (2)安心して過

ごせる居場所の提供(3)学校の勉強の復習・宿題等の習慣づけ(4)基礎的な内容の学び直し支援等を「傾聴と対話による支援」を土台に行っています。

生活困窮者自立法に基づく都筑区区レベルセーフティネット会議（都筑福祉保健センター生活支援課）や、北部児童相談所主催のケース連携会議や、地域の小学校での支援会議に出席しました。小中学校の専任教諭と北部学校教育事務所と基幹相談支援センターと北部地域療育センターとは協働して支援を進めています。

障がい児世帯、ひとり親世帯、外国につながる世帯では経済・心理・健康面で大きな不安を抱える様子が見られ、子ども達が通う地域の小中学校・区役所・専門機関との日常的な連携を深め、子どもと親を支えるためによりきめ細やかで迅速な対応が必要です。

都筑区生活支援課と連携しての家計講座（「お金と仲良くなろう」）など、自立に向けた学びの場としてもオリジナルの企画を独自に導入して運営しています。これらは子どもたちの「できる」を積み重ねる機会となりました。子ども食堂のカレーメニューを家計講座の参加者たちが企画して、予算を立てて買い物に行き、自ら考え実行する姿から「こどもの声を聴く」ことで広がる可能性と力強さをスタッフたちも体験し多くの気づきを得ました。

ウ 川和「いっしょにあ・る・く」

「都筑区子ども家庭支援課」委託事業

「傾聴」を土台に、少人数制の家庭的な雰囲気の中、子どもたちの安心・安全な居場所を提供。子どもたちは学習に取り組み、支援者とアートクラフトやカードゲームで遊び、毎週決まった時間を「いっしょに」過ごすことで、子ども達の成長を地域の力で支えました。

エ 通所困難な児童生徒への送迎支援

通所が難しい児童生徒への車両での送迎支援（都筑区青少年支援事業における通所支援）も継続的に実施し支援の裾野を広げました。

オ 不登校の子どもを抱える親のための活動

・保護者支援：親の集いと不登校相談会

不登校児の保護者向けに「親の集い&傾聴勉強会」や個別相談、コラージュワークを実施。

家庭内の孤立感を軽減し、親自身が話せる場・学べる場を提供しました。また、神奈川県教育委員会等が主催する年2回の「不登校相談会」には法人の相談ブースを設置し、相談員として学校や制度や支援機関との橋渡しの役割と法人のフリースペース事業の紹介を行いました。

カ 若者の多様な相談に応える体制整備

「生きづらさを抱えたこども・青少年と家族のための伴走型相談事業」

神奈川県フリースペース等相談事業費補助金(継続10年目)を活用し、20~30代の若者への相談対応を充実させ、発達障がい、ひきこもり、不登校、就労、対人不安、家庭問題など多岐にわたる相談に対応しました。対面での相談以外に、電話、メール、オンライン面談等により、助言、他機関の紹介、情報提供等を行なっています。

近年は40代以上のひきこもりの方からの電話相談も増加傾向にあり、支援対象の拡大と柔軟な対応と専門機関との連携が求められています。

伴走型相談支援の日曜日のキャリアカウンセリングでは、法人理事のキャリア相談員が仕事や人間関係等の悩みに長期にわたり対応し、具体的な就労や生活の改善に向けてのサポートを継続してきました。就職が決まってもそこで終わりではなく、その後の青年たちの人生を支える働きが必要です。長年にわたる伴走型相談事業では、地道な成果をあげてきました。

キ アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト

「地域の居場所づくり」では、木材・紙・プラスチック・オイル・ビーズ・墨・布など、多様な素材を用いたアート活動を継続的に実施しました。青少年からシニア世代が、クラフトやイラスト制作を通じて創造性を発揮し、互いの作品を通して交流する場となりました。

また、アーモンドホープセンター内には、子どもたちが描いたイラスト作品や高齢者が制作したクラフト作品を展示し、訪れた人々との対話を促すきっかけとなりました。

・コロナ禍で一時中断していたイタリアとの国際連携が再開し、牧田会員のアーティストユニット「Grimme Twins」と協働して、EUと日本をつなぐ国際的交流を法人は継続しています。

・2025年3月14日、ユネスコが制定する「国際数学デー」のテーマ「数学・芸術・創造性」に着想を得て、教育プロジェクト「MAGICOMETRIA—折り紙で図形を学ぼう！」のプレゼンテーション&ワークショップを、アーモンドホープセンターにて開催しました。

これは、折り紙を愛するロベルタ・ヴィリリ氏と牧田あゆみ会員（共にイタリア在住）の協働プロジェクトで、法人の支援スタッフが参加し、紙で幾何学的な花を制作する折り紙ラボを通じて、図形や空間認識を体験的に学び、*STEAM教育*の視点からアートと数学のつながりを楽しく学ぶ機会となりました。

参加者からは「子どもたちも楽しみながら学べそう!」「高齢者支援にも応用できる」との声が寄せられ、今後の支援に活かせる手応えを得ることができました。今後も、創造性と学び、そして対話が融合するアート活動の場を広げていきます。

*STEAM教育*とは

科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術 (Art)、数学 (Mathematics) を組み合わせた学びの方法です。知識だけでなく、創造力や問題解決力を育てることを目的に、技術革新やグローバルな課題に柔軟に対応できるとして多くの国で進められています。

(3) 多文化共生の推進等に関する事業

令和6年度は「横浜に聴くプロジェクト」および「英語カフェ」の外部活動は一時休止しましたが、令和7年度より新たに「横浜に聴くプロジェクトー国境を越える横浜文化ツアー」として再開予定です。また、横浜の歴史をテーマとした「オーラル・ヒストリー（口述歴史）」の新企画も準備中です。

・本プロジェクトは、2016年度に実施した特別講演会「多様性にかかれた多文化共生社会へ～横浜ヤンキーに聴く～」から発展したものです。当時は、米国から著者ヘルム氏を招き、横浜市国際局長の挨拶のもと、横浜の歴史・文化・多様性を多文化共生の視点から見直す機会を提供しました。今後も「聴くこと」に基づいた多文化共生の実践と、歴史・文化を重ね合わせた対話の場づくりを進めていきます。

(4) 障がい者支援の推進等に関する事業

子どもや大人の「発達障がい」に関する相談が増加しており、個々の特性に配慮した支援が求められています。本法人では、障がいの理解を深めながら、凸凹な個性を活かす対話的支援を重視し、継続的に取り組みを進めました。

・今年度も「都筑リビングラボ」（横浜市政策局）の一員として、都筑区北山田小学校の個別支援級に在籍する児童の保護者を対象に、「傾聴と対話実践の面接」を実施しました。また、10月には横浜市庁舎で開催された「ヨコラボ2024」に代表が登壇し、「ぼくの／わたしのつよみをみつけよう～個別支援学級の児童とその保護者に向けた支援～」の中で、「傾聴と対話による支援」の実践事例を紹介しました。

・北山田拠点では、1月31日に「第9回障がいと傾聴セミナー」を開催し、参加者18名が集いました。講師に、デンマークのインクルーシブ教育先進校「エグモントホイスコーレン」に日本人障がい当事者第一号としての留学経験をもつ笠羽美穂氏、福祉実践者である村井美和子氏を招き、ファシリテーターは代表水谷が務めました。両氏の体験を通じて、「自分を大切に生きる方をデンマークから学ぶ」セミナーで、北欧の実践を日本の現場に活かす対話的アプローチを学びました。

(5) 高齢者支援の推進等に関する事業

ア 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業「アーモンドカフェ～スープの時間～」
（横浜市健康福祉局補助金事業）

「傾聴と対話」研修を受けた「ACN傾聴ボランティア」が中心となり、企画・運営を担いました。化学調味料を使わず、香味野菜や季節の食材を使った栄養価の高いスープランチと、書

道・クラフト・簡単な体操・脳トレ・音楽などの介護予防プログラムを組み合わせ提供しました。参加者は60代から90代の高齢者で、食事と会話を楽しむ中で、心身の健康促進が図られました。

・都筑区役所、東山田地域ケアプラザ、都筑区社会福祉協議会と本法人との4者連携により、地域住民ボランティアが主体となって運営しました。活動時間後も自然な会話が続き、交流の場としての価値が深まりました。長く関わっているボランティアに個人的な悩みを打ち明ける利用者の姿も見られ、「なんでも話せる居場所」として信頼される場となっています。また、持病を抱える高齢の方が多く集う場であることから、参加者の健康状態に配慮し、緊急時への備えも再確認しながら、安心して過ごせる地域の居場所づくりに努めました。

イ 傾聴コミュニティ「MYカフェ」

介護、不登校、仕事などさまざまな悩みを抱える方に対して、「ACN傾聴ボランティア」がこころの支援を行いました。

傾聴によって本人の思いや困りごとを丁寧に受け止め、その後の高齢者支援、不登校支援、または専門機関との連携へとつなぐサポート体制を構築しました。

(6) コミュニティ活動の推進等に関する事業

「アーモンド・ヨガ」「書を楽しむ会」「アーモンド・パソコン講習」

不登校の10代から独居の80代まで幅広い地域住民が参加しました。健康維持、心の安定、新しい生活様式への適応を目的に、多世代交流・多文化交流の場として継続開催しました。

外国籍の参加者も交えた書道体験では、国籍や世代を超えた交流が生まれています。

「アーモンド・パソコン研修」には、法人スタッフも積極的に参加し、参加者のニーズに応じて講座内容を調整しました。2024年度は「①パソコンの問題を自己解決する」「②慣れていない人にアドバイスできる」を目標に掲げ、ICT・DXの基礎から実践まで体系的に学びました。2025年度は生成AIの活用を視野に入れ、Windowsの基礎からあらためて学び直すことで、新規参加者も含めたスキルの底上げを図ります。

(7) 上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

令和6年度は、法人の各事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談の活動を精力的に展開し、全体で260日間・延べ1078人の参加がありました。

教育・研修・啓発の企画では、専門的知識や実践的技術の習得に加え、参加者同士の学び合いと交流の機会にもなり、ネットワークが全国に広がる年となりました。

講演会やセミナーは年々参加希望者が増えており、今後も現場や必要とする方々のニーズを丁寧に汲み取りながら、質の高い学習と支援機会の充実に努めてまいります。

2024（令和6）年度の行政委託事業・助成金・補助金・寄附金・寄贈品と会員数等

■行政機関の委託事業

合計 17,123,987 円(税抜)

- ・横浜市子ども青少年局
都筑区寄り添い型生活支援事業
- ・横浜市都筑区子ども家庭支援課
地域が支える子ども達の居場所づくり事業
- ・横浜市子ども青少年局
都筑区青少年支援事業における通所支援事業
- ・神奈川県教育委員会
令和6年度子どもの居場所づくり推進事業
- ・神奈川県教育委員会
令和6年度学校との連携強化推進事業
- ・神奈川県教育委員会
令和6年度不登校等の児童・生徒支援に係るメタバース運営等業務

■行政機関の補助金事業

- ・神奈川県フリースペース等事業費補助金事業
「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための寄り添い型相談事業」
750,000 円
- ・横浜市子ども青少年局子ども家庭課
ヤングケアラー支援団体補助金事業
921,250 円
- ・神奈川県福祉子どもみらい局
ひきこもり等支援団体支援事業支援金
20,000 円
- ・横浜市健康福祉局地域包括ケア推進課
横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業
アーモンドカフェ「スープの時間」
3,000,000 円

■助成金

都筑区社会福祉協議会 合計 152,000 円

- ・ふれあい助成金 ・善意銀行
- ・年末助け合い助成金
- ・神奈川県子ども食堂応援事業協力金
60,000 円

- ・子ども家庭庁
ひとり親家庭食品配布支援事業助成金
キッズドア「ごはん応援プロジェクト2024」
3,490,000 円

- ・(一財)篠原欣子記念財団 子ども食堂
「フルーツ支援」助成金 50,000 円

■寄付金

- 個人寄付総額 4,434,045 円
- 個人寄付者延べ人数 1,640 名
- (株)コタニ興業 100,000 円
- 都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ
10,000 円
- 横浜労働者福祉協議会子ども食堂寄附金
40,000 円
- 日本基督教団 田園江田教会
10,000 円
- 認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター
10,000 円
- 第一生命労働組合神奈川東京支部
70,000 円
- 横浜都筑ロータリークラブ
100,000 円
- 株式会社壺番屋 教育寄贈品として
511,070 円

■会員数

- ・正会員 26 名
- ・賛助個人会員 60 名
- ・賛助団体会員 2 団体
都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ
(株)コタニ興業

■所属・参画ネットワーク

- ・全国子どもの貧困教育支援団体協議会
- ・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会
- ・横浜子ども支援協議会
- ・Dialogue for You (d4U)
- ・(一社)ラシク045

(執筆：水谷裕子、中田香)

第13期 2024年度 法人事業開催日数と受益者総数

事業名	事業内容	開催日	受益者延べ人数
子育て支援の推進等に関する事業	アーモンドフードパントリー（食品等提供活動）フードバンクかながわ・社協・企業連携	86日	1296名
	アーモンドこども食堂	12日	269名
	こども家庭庁原資「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業	58日	1337名
	東山田シェアごはん参加事業（低価格弁当による食支援）	11日	55名
青少年の健やかな成長の推進等に関する事業	「フリースペース ともにあ・る・く」青少年支援事業（こどもと保護者への支援）	243日	559名
	「都筑区寄り添い型生活支援」横浜市委託事業（こどもと保護者への支援）	243日	2161名
	「都筑区地域が支える子ども達の居場所づくり」都筑区委託事業（こどもと保護者への支援）	46日	139名
	「都筑区青少年支援事業における通所支援」横浜市委託事業	148日	177名
	「不登校相談会・親の集いと傾聴勉強」不登校ひきこもり支援事業	11日	10名
	「横浜市ヤングケアラー支援団体補助金事業」横浜市補助金事業	27日	54名
	メタバース活動事業：神奈川県教育委員会委託 共同事業体 「不登校の子どもの支援するためのメタバースを活用した新たな居場所作り」 （共同事業体による支援日総計と利用者延べ人数）	132日	350名
	ICT教材「eboard」による学習支援	43日	43名
高齢者支援の推進等に関する事業	「スープの時間」横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業	90日	995名
	「傾聴コミュニティMYカフェ」	12日	27名
コミュニティ活動の推進等に関する事業	「アーモンド・パソコン講習」	12日	56名
	「アーモンド・ヨガ」	18日	84名
	「書を楽しむ会」	12日	79名
	「アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト」	1日	9名
法人の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談事業	「傾聴と対話の広場」研修会（北山田法人拠点 火曜）	10日	121名
	「対話のことは実践ワークショップ」研修会（北山田法人拠点 金曜・日曜）	17日	148名
	「Early Dialogues早期の対話実践・支援を学ぶ」勉強会（北山田法人拠点 木曜）	7日	86名
	「傾聴支援者養成研修」「傾聴と対話実践講演会」（外部組織より依頼）	9日	285名
	「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための相談事業」神奈川県補助金事業	212日	282名
	トム・エリク・アーンキル（Tom Erik Arnkil）氏とタルヤ・ヘイノ（Tarja Heino）氏（フィンランド国立保健福祉研究所 名誉教授） 「Dialogueダイアログ実践研修会」 Dialogical Meetings in Social Networks in Kanagawa」	2日	124名
	「不登校・子ども支援団体教育プログラム eDojo 職員スタッフ研修」	2日	9名
	オッリ ライホ（Olli Laiho）氏 ワークショップ「早期ダイアログを学ぶ」	1日	23名
多文化共生の推進等に関する事業	「英語カフェ」「横浜に聴くプロジェクト」（休止中/令和7年度再開）	1日	3名
障がい者支援の推進等に関する事業	第9回障がいと傾聴セミナー「自分を大切に生きる方をデンマークから学ぶ」	1日	18名

受益者総数 8845名